

戦争を無くすために

国府津中学校 三年 渡辺 夏帆

夏休みの間に、広島、長崎に原爆が投下された日、第二次世界大戦の終わりを迎えた日が起きてから八十年が経ちました。私は修学旅行で原爆ドームや平和資料館に行き、当時の映像や人々の服、爆発の影響を受けた建物を見ました。映像には、爆発の瞬間だったり、たくさん傷を負った人がたくさん写っているのを見て、「どうしてこんなことが今も世界で起きているのだろう」と思いました。修学旅行に行く前、歴史の授業で戦争のことについて学び、すごく悲しいとは思いましたが、やっぱり実際に物や被爆者の話を聞いたら、考えが変わりました。実際に今も世界のどこかで戦争をしていて、人が命を落としている。その事に気づいた瞬間、修学旅行前の自分はなんだったのだろうと思いました。

被爆者の話で一番衝撃を受けたのは、命を落とした人の大半は子どもだったということです。その子どもたちは、きっと学校に行きたい、友達と遊びたいなど願いがあつたはずだと思います。「したいことができない」環境は、ものすごく耐えられないです。七十年以上前の出来事なのでこの事実を伝えていく人が減っている状況の中、私たちはこの記憶から学ぶべきだと考えます。戦争悲惨さを知る事は、平和を守る行動につながる、つまり戦争を無くすことができると主張します。

では、なぜ戦争は無くならないのでしょうか。その理由としては、「お互いの国が引かずに、力で終わらせようとするから」だと感じました。国同士が自分が正しいと思ひ込み、相手の意見を理解しようとしなないのが原因です。これは友達とのけんかや共通点が多く、小さな誤解で意地を張ると、大きな争いに発展します。防ぐためには、「話し合いで解決する姿勢」が必要だと感じます。

お互いを理解し合うためにできることが三つあると考えます。

一つ目は、「相手を知らうとすること」です。なぜなら、知らないものは怖く感じたりするけれど、相手の文化や考えを理解すれば、怖いものという視点から、仲間という視点に変わります。国同士も全く同じで、交流や意見を理解することで、戦争を防ぐことができたりします。

二つ目は、「戦争の記憶を忘れないこと」です。被爆者が人々に発信する役目があり、私たちがもつと周りの人に伝えていくという私たちの役目もあります。「二度と同じ事を繰り返さない」を目標にし、戦争を経験していない世代にも、記憶を伝え続ける事が未来に繋がると 생각합니다。

三つ目は、「戦争のことをよく知ること」です。私たちは授業で学んだ

ただだったり、戦争のことについてあまり知られていない部分にも触れて、知識を増やすことも大切だと思います。私は、戦争を無くすためにこの三つの意見を主張します。

今の現状は、広島・長崎に原爆が落ちた日を知らない人がたくさんいることです。よくあるショート動画で、二十代の様々な人に、「原爆が落ちた日を知っていますか」というインタビューをしていました。ですが、半分以上がわからないと答えていてびっくりしました。今の状態から意識を変えることができれば、現状は変わるはずです。一人一人が「なくしたい」と思い、小さな行動を積み重ねることが大切で、必要です。

戦争をなくすために無関心でいてはいけません。私はこれから、この思いを大切に持ち、将来大人になったとき、「平和を守る人」でありたいと思います。